

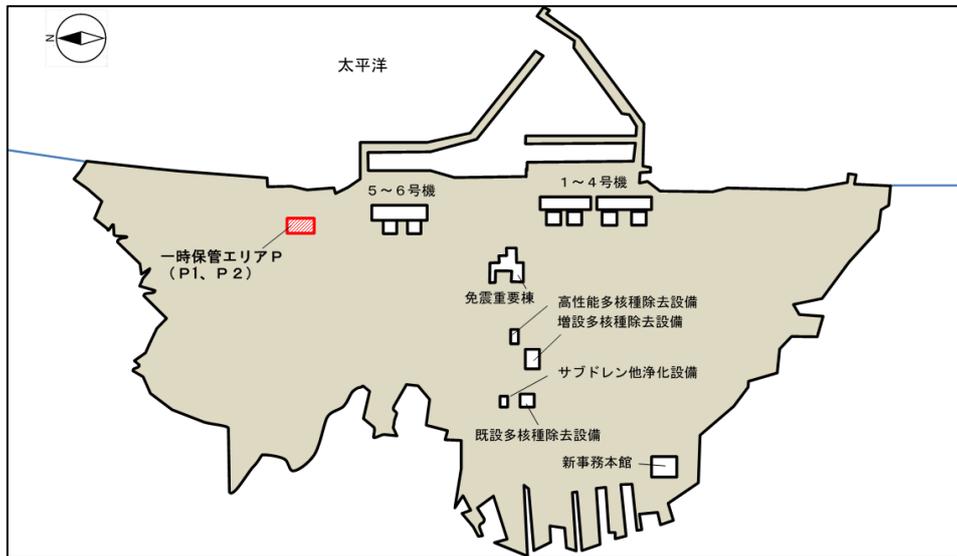
福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
令和4年6月30日（木）
- 2 確認箇所
瓦礫類一時保管エリアP（P1、P2）
- 3 確認項目
瓦礫類一時保管エリアPの現況

4 確認結果の概要

昨年3月に瓦礫類一時保管エリア（以下「一時保管エリア」という。）W2に保管されていたコンテナから放射性物質が漏えいした事象が確認された。また、6月～8月には一時保管エリアX及びP2で保管されていた収納容器（コンテナ、ノッチタンク）からの放射性物質を含む溜まり水の漏えいが確認された。さらに、一時保管エリアW1でコンテナの一部の天板に穴があることが確認された。これらを踏まえ、東京電力では本年3月を目処に飛散抑制対策（容器収納、シート養生）が必要な瓦礫類を保管している収納容器を耐候性のシート（以下「本設シート」という。）で養生する他、収納容器からの漏えい水が側溝に流入しないようエリアと側溝の境界部等に土のうを設置するとしていたことから、これらの対応を実施していた一時保管エリアのうちの一つである一時保管エリアPの状況を確認した。（図1）（前回確認日：[令和4年1月13日](#)）

- ・エリアの周囲を流れる側溝付近の草が刈られており、側溝とエリア内の境界に土のうが設置されていたが、一部土のうが設置されていない箇所も散見された。（写真1）
- ・エリア北側の側溝では、側溝の底部にモルタルが充填されていた。（写真2）
- ・エリア内の収納容器は一部を除き、本設シートで養生されていた。（写真3）
- ・放射性物質を含む溜まり水が漏えいした収納容器（ノッチタンク）は仮設シートで養生されており、周辺の汚染した土壌を掘削した箇所は、土砂で埋め戻しされていた。ノッチタンク上には安全帯のフックを掛けるために使用する親綱支柱が設置され、周囲には脚立等が設置されていた。（写真4）
- ・目視で確認した範囲で、収納容器の破損や収納容器からの瓦礫類の流出等は見られなかった。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)
一時保管エリアPの側溝付近の状況
(北東側から撮影)



(写真2)
一時保管エリアPの北側の側溝付近
の状況(西側から撮影)



(写真3)
一時保管エリアPで保管されている
収納容器の例



(写真4-1)
ノッチタンク周辺の状況
(令和4年1月13日撮影)



(写真4-2)
同左
(令和4年6月30日撮影)



(写真4-3)
ノッチタンク上部の状況

5 プラント関連パラメータ等確認

3号機原子炉格納容器内の温度計（格納容器空調機戻り空気温度TE-16-11 4A）が、3号機の他の温度計と異なり低下傾向を示していることから、今後の推移を注視する。

その他の各パラメータに異常な値は確認されなかった。